

瓦じゃーなる

no.5

発行:日経工務店有限会社
2017年4月1日(土)

・やっとはるになって日も長くなってだいぶ過ごしやすくなりました。



今、大東市の旧家のお屋敷で昔の納屋として使われていたものを「家族の方の寝室、一部屋と奥さんのアトリエ（工作室）を1室、作らせてもらってます。

大昔は、馬小屋だったそうなのですが、というのも間口が4間（約8m）で梁間が2間半（約3m）の部屋の中に柱が1本もなく両端の梁から梁にかけて1本の大きな丸太（地棟？）がどしっとかかっている小屋組みを架構している造りになっていてしたは、大空間になっています

もし、柱があって、馬や牛がぶつかったら簡単に傾いてしまうからだと勝手に解釈して

るのですが、普通なら、どこか1本ぐらいはつかえ棒的な柱がほしいような気がします。今まで崩れず建っていたので、先人の人の構造的な力のバランス感覚はカッコイイです。又、その大きい丸太（末口で直径50～60センチ）を屋根の高さまで持ち上げるというのもすごいし、大きくうねっているのに同じ屋根の棟の水平レベルに持ってくる知恵もすごいです。

このお屋敷の方は、自分が学生のころからのお付き合いで、当時母屋の改修をするのに雑用で手伝いに行ったのが最初で、それからずっとお家のメンテナンスをさせてもらってます。



奥さんはとても優しい方でもともと猫ちゃんのすきなかたなのですが、(家族の人全員)捨てられている猫や近所のひとが持ってきた子猫などを引き取って、いまでは18匹かわらっています。奥さんが言うのには2匹以上になると何匹になっても一緒だそうです。以前、敷地に迷い込んだプレーリードッグも飼われていて、たまに野生のタヌキも来るみたいです。奥さんはその猫ちゃんのオブジェや小物を作って敷地内で、娘さんたちが営んでいるカフェ(あんず)の店内に飾っています。

猫ちゃんの置物は、本物そっくりで、毛並みの書き方や筋肉のこもこしたところは、猫ちゃん好きな方でないと表現できない感じです。リフォームももう少しなので創作意欲のわく、部屋にして早く使っていただけるようにがんばってます。



先月、自分が参加させてもらってる勉強会でラジオの生放送に出演させていただきました。これは、勉強会のメンバー方が順番で出演されて、今まで学んだレクチャーや実践してわかったことや反響などをオープンスタジオで会話をする感じで、あまり実践をしていない自分は話すことが少ないので、大丈夫かな~とおもっていたのですが、勉強会の講師でもありDJの太田さんと星野さんが事前にした打ち合わせにうまく話をつなげてくれて無事終了しました。

放送前、太田さんが【おかだ、お前、4秒黙ったら放送事故やからな】とおどされ、かなり緊張しましたが、いい体験をさせてもらいました。

おわってみるとまた出たいです



奈良に行く用事があり、時間があつたので、東大寺にまいらせてもらいました。東大寺は、自分の中で一番好きなお寺で何回見ても圧倒されます。中でも南大門の木組みと柱の大きさはじーっと見入ってしまいます。建てた柱を繋ぎ止めるのに横に又キを貫通させて前後左右に安定させてるのですがその架構や端々の装飾が何回見ても飽きないです。また、本堂の中におの瓦の実物が置かれていて大きさにびっくりします。ああいう大きい部材を見るとどうやって設置したのかとか、どうやって施工したのかばかり考えて（クレーンや重機のないときに）自分だったらああするなあ、とかこうするな、と当時の棟梁の気になってみます。



奈良も以前と違って観光のひとで賑やかでした。奈良町も古い町並みにうまく溶け込んで雑貨屋さんやカフェがあつて、店のファザードや照明の使い方なんかとても参考になります。ついつい要らないものを買ってしまったらいつも後悔しています。蚊帳を作っていた店の布巾を買ったのですが、柄が仏さんの顔なので使いにくかったり、別の店で草履を買ったのですが、はく機会がなかったりと店に居ると雰囲気がかってしまいます。

匠史の
道具箱



下の写真が大西のみ

自分は、今の仕事を始めた時、必要最低限のノミを3本（5分、8分、1寸）買いました。それから同じ銘柄（大西）のものを少しずつ買って一通りそろいました。（セットでいくらというものもあるのですが、なかなか高くててがでないです。）金物屋さんが言うのには大西のみは、よく切れるのみだそうです。ノミも銘柄や作者によって色々で、市弘というのもものだと高いものでセットでうん百万するみたいです。

以前一緒に仕事をした大工さんがその銘柄のものを持っていて見せてもらったのですが刃先や形がカッコよかったのを覚えてます。切れ味もばつぐんみたいなのですが、さすがにほとんど使ってないみたいです。

ノミは、叩いて使うイメージなのですが、そういったノミは、刃

先を研ぎきって鋸の切り口や細工した小口を整えたり、滑らかにしたりするのに、おしたり、ついたりするのに使います。

普通のノミは、柄のお尻をたたいて、木を刻むので柄が裂けないように、鉄の輪（カツラ）がはめています。ノミも刃先が切れるのが重要な道具ですが、このカツラが柄にはまってなく、カツラ自体をたたいてる状態のノミは、木に食い込みが悪くあまりよくないです。あくまでも木の柄を叩くのがいい状態です。



叩きのみ

柱や梁を刻むときに使います